

9月入学の主なメリット・デメリット等

	メリット等	デメリット等
全 て 共 通	会計年度と学事歴がずれる	
	諸外国では必ずしも会計年度と学事歴が連動していない	<ul style="list-style-type: none"> ・予算単年度主義との関係の整理が必要となる ・学校予算関連の事務処理が煩雑となる
	教育計画、学校行事、給食の日程変更等に係るコストが発生する	
	一過性のコストであり、長期的に見れば問題にならない	移行の一時期に集中的なコストが発生する
	全学校種を基本的に9月入学とする	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の休校措置により生じる教育格差の是正に資する ・海外留学も含め学習の継続性が確保される 	大学以外は近年議論されていないため、唐突感がある。関係者及び国民的理解を得られるか	
小 ・ 中 ・ 高 共 通	学校教育法施行規則の改正が必要となる	
	法律の改正は必要としないので、ハードルとしては高くない	タイトなスケジュールでの省令改正手続き（中教審での審議、パブコメの実施等）が必要となる
	教員採用・退職時期と学事歴がずれる	
	教員の採用・退職時期を併せて見直せばよい	<ul style="list-style-type: none"> ・移行の一時期に集中的に教員の採用時期変更に伴うコストが発生する ・年度途中で教員が定年退職する懸念がある
	民間企業等の人事異動の時期と学事歴がずれる	
	<ul style="list-style-type: none"> ・通年採用の定着等により問題になりにくくなる ・長期的に見れば年度途中の転校生が増加し、それが普通のこととなれば特段の問題にはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業等から教員への転職がしにくくなる ・保護者の3月異動に伴う年度途中の転校が増える懸念がある
夏休みが学年と学年の間に入る		
<ul style="list-style-type: none"> ・進学や進級に向けた準備期間が充実する ・教員が時間をかけて年間の授業計画を立てることができる ・現在も部活動は学年の切れ目である春休みでも行われており、その意味では現状と変更はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの過ごし方について学校が関与しにくくなる ・部活動の機会の減少や大会（夏の全国高校総体等）の開催に影響がでる 	
高 校	高校受験の時期が夏季になる	
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年は都道府県によって休業期間が異なるなど既に受験生間の学習状況・環境に差が発生している。受験が半年ずれることにより、受験生間の有利・不利の解消につながる ・積雪やインフルエンザの流行等の問題が解消する 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ほど冷房が完備されていない校舎が多い中、暑い受験会場での受験を強いられた場合には受験生の体調に影響が出る懸念がある ・令和3年については東京オリンピック・パラリンピック競技大会の時期が受験の時期に重なる ・夏季に受験生対応をせざるを得ないため、教員の働き方改革に逆行する

大学等	国際的に主流な学事歴と整合する	<ul style="list-style-type: none"> ・留学がしやすくなる ・優秀な留学生を受け入れやすくなる ・教員の交流も促進される 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来あった外国人留学生の日本での準備期間・予備教育に充てる期間が減少する ・我が国の高校生層の優秀な層が海外の大学へ流出するおそれがある 	
	授業期間・学年の途中に長期休業が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の勉学効率が向上し、教育効果が上がる ・長期休業中に教員が研究や授業準備を行いやすくなる 	諸外国に比べて勉強時間が少ないと指摘される学生がより遊びやすい環境が整う	
	就職採用活動の時期と学事歴がずれる	<ul style="list-style-type: none"> ・通年採用に向けた議論を加速する契機ともなり得る ・春季採用を前提とした場合、ギャップ期間を活用できる 	春季一括採用が早期に見直されない場合、家計負担や収入源（機会費用）が発生する	
	社会に出る時期が半年遅れる	ギャップ期間を活用してインターンシップやボランティアの経験を積むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯賃金・年金に影響を及ぼすおそれがある ・国の税収やGDPに影響が出る 	
	大学等のみが全面的に9月入学に移行すると、初等中等教育との間でギャップが生じる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験など多様な体験機会を充実させることができる ・入学前教育の充実を図ることができる ・受験競争での点数至上主義の認識がリセットできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャップ期間中の家計負担が発生する ・入学者の学力が低下するおそれ ・入学前教育などを行う場合の経費や教員の負担が増える 	
	医師、歯科医師、法曹、公務員等の公的資格試験の制度設計との不整合が生じる	各資格試験の制度設計を見直せばよい	<ul style="list-style-type: none"> ・各資格試験の制度設計を全て見直すことに伴うコストがかかる ・様々な業種に影響が及ぶことになる ・就職までの期間が延びることによる家計負担や収入源（機会費用）が発生する 	
	大学受験の時期が夏季になる	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年は都道府県によって休業期間が異なるなど既に受験生間に有利・不利が生じており、受験が半年ずれることにより、受験生間の有利・不利の解消につながる ・積雪やインフルエンザの流行等の問題が解消する 	梅雨や猛暑、令和3年については東京オリンピック・パラリンピック競技大会の時期が受験の時期に重なる等の新たな問題が発生する	
	私立学校	移行期における収入減による経営の悪化	長期的に見れば問題とならない	既に経営状況の良くない学校法人は経営存続が危うくなる可能性がある